

仕事の窓

その5

開発
建設部

那覇空港自動車道、沖縄西海岸道路、

石川バイパスの供用

道路の供用と整備効果

「新しい道路の供用により県民生活が便利になります」

「国道五〇六号豊見城東道路」

「国道五十八号読谷道路」

「国道三二九号石川バイパス」

1 豊見城東道路の供用について

那覇空港自動車道は沖縄自動車道（延長五十七km、昭和六十二年全線供用）と那覇空港を結ぶ延長約二十kmの高規格幹線道路で、沖縄自動車道とともに沖縄本島を南北に縦貫する基幹交通軸を形成する自動車専用道路です。

豊見城東道路は、一般国道五〇六号那覇空港自動車道の一翼を担うものであり、豊見城市字名嘉地から南風原町字山川に至る延長約六・二kmのうち橋梁部が四・三km、トンネル部が一・五km、土工部が〇・四kmとなっております。豊見城東道路は、平成三年度に事業化し、平成五年度に用地買収着手、平成九年三月に工事着手し、鋭意事業を推進し、南風原南ICから

豊見城ICまでの約三・九kmが平成十五年四月二十六日に暫定供用しました。供用形態としては、片側一車線の対面交通で通行料は無料となっております。今回の供用により、既に供用中の沖縄自動車道及び南風原道路と一体となって沖縄本島北部、中部、南部及び那覇空港間の定時性・高速性を確保することにより、地域振興はもとより、観光及び那覇市内の通過交通が転換することによる那覇市内の交通混雑の緩和に寄与することが期待されています。具体的には、那覇空港から沖縄自動車道までの時間短縮効果や一般国道三二九号の交通事故の減少が見込まれております。更には中北部から沖縄本島南部へのアクセスが向上することから、糸満市周辺に点在する観光地及び現在豊見城市において、開発が進められている豊崎への時間短縮効果が見込まれます。

また、事業の実施にあたり周辺環境への配慮と雨天時の交通安全向上の観点から全線排水性舗装を実施し、走行車両の快適・安全な走行、また、隣接する住宅地への

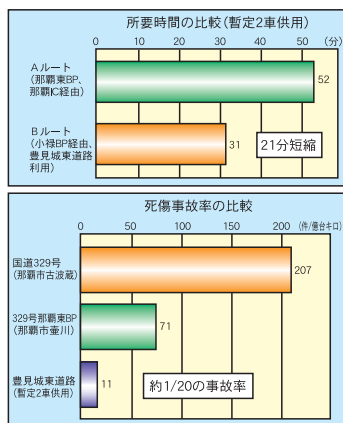


図1 平面図



開通式（平成15年4月26日）



至豊見城 豊見城IC付近

走行車両の通過音の低減を図る対策を実施しています。
なお、今後は豊見城ICから那覇空港南IC（仮称）間の早期供用に向けて鋭意事業を推進して参ります。



2 読谷道路の供用について

沖縄西海岸道路は、読谷村から糸満市までの約五十 km を結ぶ、地域高規格道路です。

沖縄西海岸道路の一部となる読谷道路は、読谷村親志の国道五十八号から同村古堅に至る延長六・〇 km の道路です。この道路が完成することにより本島北部と中南部を結ぶ主要幹線道路となり、読谷村、嘉手納町の国道五十八号の交通渋滞の緩和はもとより、地域の産業、観光及び地域振興プロジェクトを支援する道路となります。

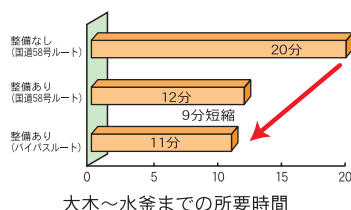
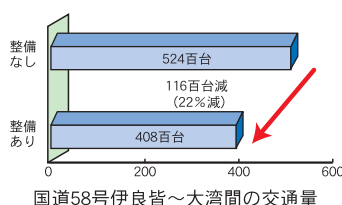
読谷道路は、昭和六十二年に事業化し、平成十一年三月には道路整備のため嘉手納弾薬庫地区とトリイ通信施設の一部が返還され鋭意事業を進めています。

今回（平成十五年四月十六日）供用された読谷道路の暫定供用区間は、大木地区県道六号線から古堅地区県道十六号線に至る延長一・三 km です。本区間の早期供用を図ることにより、読谷村伊良皆から嘉手納町水釜までの国道五十八号の渋滞緩和が見込まれるとともに、地域通学児童の交通安全確保の為、暫定供用区間東側に歩道を設置しました。

＊ ＊ ＊



開通式（平成15年4月16日）



平面図

3 石川バイパスの供用について

石川バイパスは、名護市を起点とし那覇市までの沖縄本島東海岸の主要都市を結ぶ一般国道三二九号のうち、交通混雑の著しい石川市街地の交通緩和を目的に金武町屋嘉、沖縄市後原に至る八・二 km の四車線バイパスとして計画されました。

昭和六十三年に事業化し、平成十二年までの間、早期に整備効果を発現させるために段階的に五・九 km の供用を行ってきました。

平成十五年三月二十七日（木）に県道六号線、石川市山城間〇・五 km を供用し、暫定二車線ではありますが石川バイパスが全線供用となりました。

石川バイパス供用による効果

石川バイパス供用後に交通量調査を実施し、バイパス供用による効果を調査しました。

バイパス供用後現道区間の交通量が減少し、バイパスに交通が転換していることがうかがえます。

また、金武町屋嘉、沖縄市後原間の通過時間も短縮しており、石川バイパス供用による効果が現れています。



開通式（平成15年3月27日）

